

## 外来小手術シリーズ「口腔軟組織の小手術」

## 第6回

## ガマ腫の開窓

大分大学医学部歯科口腔外科  
助教 田嶋理江

## はじめに

ガマ腫とは舌下腺の停滞、溢出により口腔底に生じた大きな嚢胞と定義されており、舌下腺導管の損傷により、唾液が周囲組織に溢出して生じます。

臨床所見としては、口底粘膜に生じる波動性を有する柔軟な膨隆で、典型的なものでは大きくなると暗紫色を呈します。顎舌骨筋より上の舌下隙に存在することが多いですが、顎下部や側頸部におよぶ顎下型ラヌーラもあります。

今回は、一般的によく見る機会の多い舌下型のガマ腫の治療について解説します。

## 治療法の要点

ガマ腫は粘液嚢胞と同様に、嚢胞壁に上皮を有することはほとんどありませんが、切開や吸引処置では再発は必至であるため、嚢胞全摘およびその周辺唾液腺の清掃、摘出を適応することが理想です。しかしながら、嚢胞壁が菲薄であり、さらに解剖的な位置関係もあって、嚢胞壁の穿孔をきたしやすいため、開窓術が第一選択として試みられています。解剖学的には、舌神経やワルトン管を傷つけないように注意する必要がありますが、内容液の充満した時点で手術を施行することが、安全に手術を行うことにつながりとても重要です。

## 術式

麻酔は嚢胞周囲に必要な最小限行います。嚢胞内への麻酔薬の注入は行わないようにします。開窓の場合、深部への手術侵襲が加わらないため麻酔は比較的浅い部分のみで手術が可能です(写真1、2)。

No.11メスを用いて、最も被薄化した嚢胞壁の近心よりに切開を加え、嚢胞を穿孔します(写真3、4)。内容液を排出させてしまうと嚢胞内腔がわかりにくくなってしまうため、できるだけ内容液を残したまま開窓するようにしています。嚢胞腔内には、解剖学的な構造物は存在しないためより安全に開窓することができます。

開窓部の嚢胞壁と口底粘膜辺縁部に針を通し、写真のように縫合を行います(写真5)。順に縫合しながらメスもしくは鉗で開窓を進めていきます。口腔粘膜を切除してしまうと開窓部に沿って糸がかかった状態になります。

開窓された状態を維持するために、嚢胞内にガーゼを挿入し、タイオーバー固定を行います(写真6)。

タイオーバー固定をする前に嚢胞内を生食水でよく洗浄し、軟膏ガーゼもしくは生食水で湿潤したドレーン用ガーゼを挿入して、タイオーバー固定して終了します(写真7)。



写真1：初診時

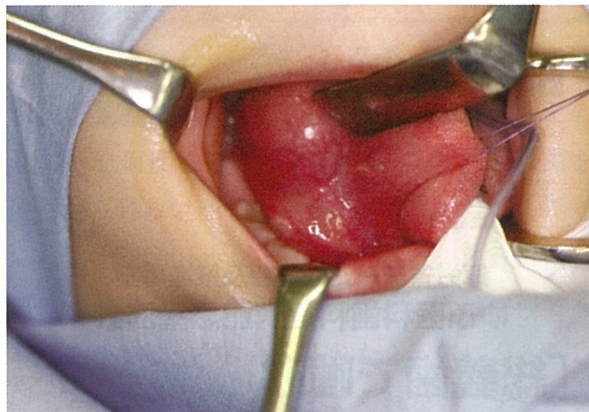


写真2：術前

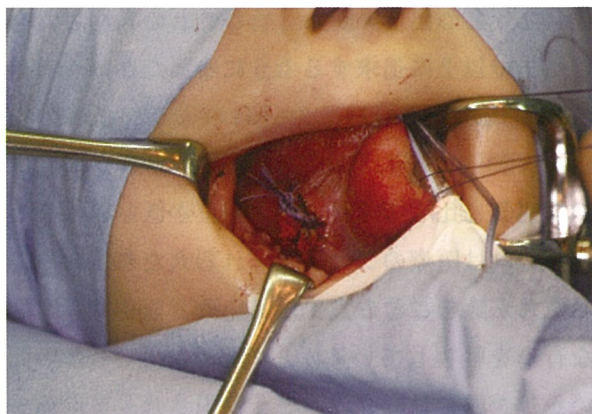


写真3：切開線の設定

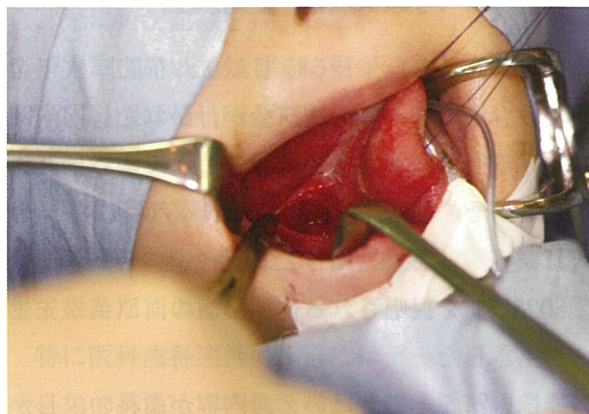


写真4：開窓時

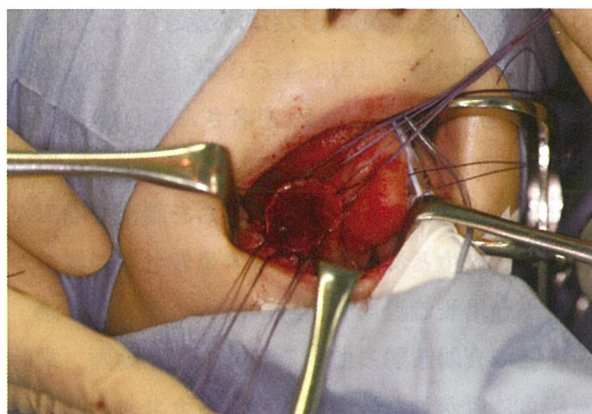


写真5：縫合時

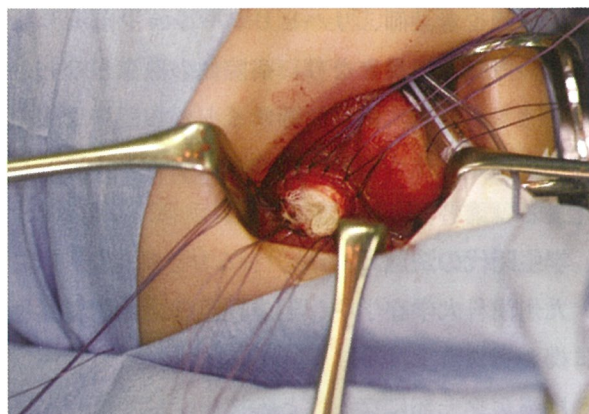


写真6：ガーゼ留置後

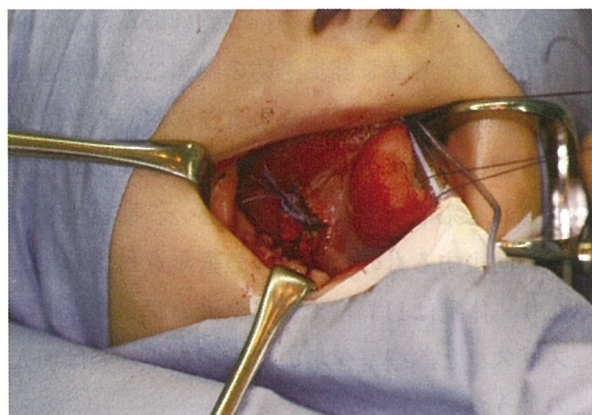


写真7：終了時